

令和元（2019）年 7 月 19 日

宮滝遺跡第 70 次発掘調査記者発表資料

吉 野 町
奈良県立橿原考古学研究所

調査名称 宮滝遺跡第 70 次発掘調査
事業名 史跡 宮滝遺跡 歴史生き生き!史跡等総合整備活用事業
(町事業名：吉野万葉整備活用事業)

調査地 奈良県吉野郡吉野町宮滝地内
調査面積 305 m²
調査期間 平成 31 年 1 月 19 日（土）～平成 31 年 3 月 29 日（金）
調査主体 吉野町
調査指導 吉野万葉整備活用検討委員会
委員長 菅谷文則（奈良県立橿原考古学研究所所長：調査当時）

調査担当 吉野町教育委員会事務局 主査 中東洋行
調査協力 奈良県立橿原考古学研究所
指導研究員 廣岡孝信、指導研究員 奥山誠義
主任研究員 鈴木一議、主任研究員 木村理恵、主任研究員 岡見知紀
主任技師 齊藤 希、主任技師 河崎衣美、技師 木村結香

1. はじめに

史跡宮滝遺跡は紀伊半島を東西に横断する吉野川の北岸に位置し、『日本書紀』や『続日本紀』に記述がある吉野宮・吉野離宮に比定される遺跡である。平成 29 年度の第 69 次調査では梁行^{はりゆき}5 間 (9.6m)、桁^{けた}行 9 間 (23.7m) の大型掘立柱建物 (SB4101) が確認され、吉野宮の正殿かと話題になった。今回発表する平成 30 年度実施の第 70 次調査は史跡宮滝遺跡の整備事業に伴う調査であり、SB4101 周辺の様相を確認するために実施した。

2. 調査の主な成果【図 2】

・掘立柱建物 1 (SB7001)

SB4101 の北に 5.7m の間隔をあけて確認された掘立柱建物である。第 70 次調査では柱穴 9 基を検出した。梁行 2 間 (6.0m)、桁行 4 間 (8.0m) 以上の掘立柱建物である。国土座標に対する振れは、北に対して西に 18.2°傾き、SB4101 と平行する。検出した柱穴は一辺 1.2~1.8m をはかり、いずれの柱穴にも抜き取り穴が確認できた。抜き取り穴からは奈良時代前半の軒瓦が出土している。なお、SB7001 は第 1 次調査で確認されている石組み溝の方形区画内に収まるとみられ、規模が想定できる。

・掘立柱建物 2 (SB7002)

SB4101 の南西で確認された掘立柱建物である。今回の調査では、柱穴 5 基を検出した。梁行 2 間 (5.4m)、桁行 2 間 (2.6m) 以上の SB7001 と平行する掘立柱建物である。検出した柱穴は一辺 1.0~1.3 m をはかり、遺構の大半が調査区外にあるものをのぞけば、いずれの柱穴にも抜き取り穴を確認している。遺構の上層が後世に削平されており、また、遺物も出土していないため、今回の調査成果のみで SB7002 の年代の特定は困難だが、周辺の調査成果から奈良時代前半と判断した。SB4101 の中軸線に対して、SB3602 と東西対称となる建物である。

・掘立柱塀 1 (SA6801)

昨年度の調査で、SB4101 の西 6m (20 尺) の位置で検出した掘立柱塀である。今回の調査の結果、SA6801 は 50m 以上南北にのび、南端は SA4101 の南西角付近で屈折することを確認した。ただし、調査区内で柱穴が切りあって検出されているため、東西のいずれへ屈曲するかは検討を要する。また、第 1 調査区では SA6801 に先行する遺構 (SX7003 と SA7004) が確認されたため、最低でも SA6801 には 3 時期の変遷があることを確認した。なお、今回検出したすべての柱穴には抜き取り穴を確認している。

・掘立柱塀 2・3 (SA7005・SA7006)

SB7002 の東側で検出した。今回の調査では SA7005 は 3 間分、SA7006 は 2 間分を検出したが、調査区外へさらに続くと思われる。検出した柱穴はいずれも一辺 0.8~1.0m をはかる。なお、SA7005 は SB4101 の中軸線に対して、SA3603 とほぼ東西対称の位置で確認している。

3. 調査のまとめ

- ・今回確認した遺構は、SB7001 の抜き取り穴出土軒瓦や周辺の調査成果から判断して、奈良時代前半のものと考えられる。ただし、それぞれの遺構に切りあい関係が認められる（奈良時代前半の遺構に先行する、より古い時期の遺構が確認できた）ため、当初造営時期は奈良時代前半以前に遡る可能性がある。
- ・今回の調査により、奈良時代前半の宮滝遺跡中心部の建物配置が確認できた。当該時期は、『続日本紀』にある元正天皇や聖武天皇の行幸があった吉野宮（吉野離宮）が機能していた時期と符合する。このため、SB7001 や SB7002 などは、吉野宮（吉野離宮）に伴う建物等と考えられる。【表 2】
- ・SB4101 周辺の建物は SB4101 の南北中軸線を基準とし東西対称に配されることが初めて確認できた。宮滝遺跡は吉野宮（吉野離宮）に比定されている遺跡だが、全国的にみても離宮の調査事例は乏しく、その中心部の建物配置が確認できたことは極めて大きな成果である。
- ・平城宮や後期難波宮、宮町遺跡（紫香楽宮）と宮滝遺跡の遺構配置図を比較すると、宮滝遺跡では脇殿とみられる掘立柱建物（SB3602 と SB7002）が東西棟となっている点が特徴的である。離宮の建物配置を考える上で注目できる。なお、長岡宮において本例と近しい建物配置が確認されている。
- ・第 1 次調査で確認されている石組み溝等の記録を今回の調査成果と合成したところ、現代の調査成果と充分照合できることが確認できた。このため、第 1 次調査の図面の精度は高いものと改めて評価でき、宮滝遺跡の未調査地における建物配置等を検討する上で参照できることが明らかになった。

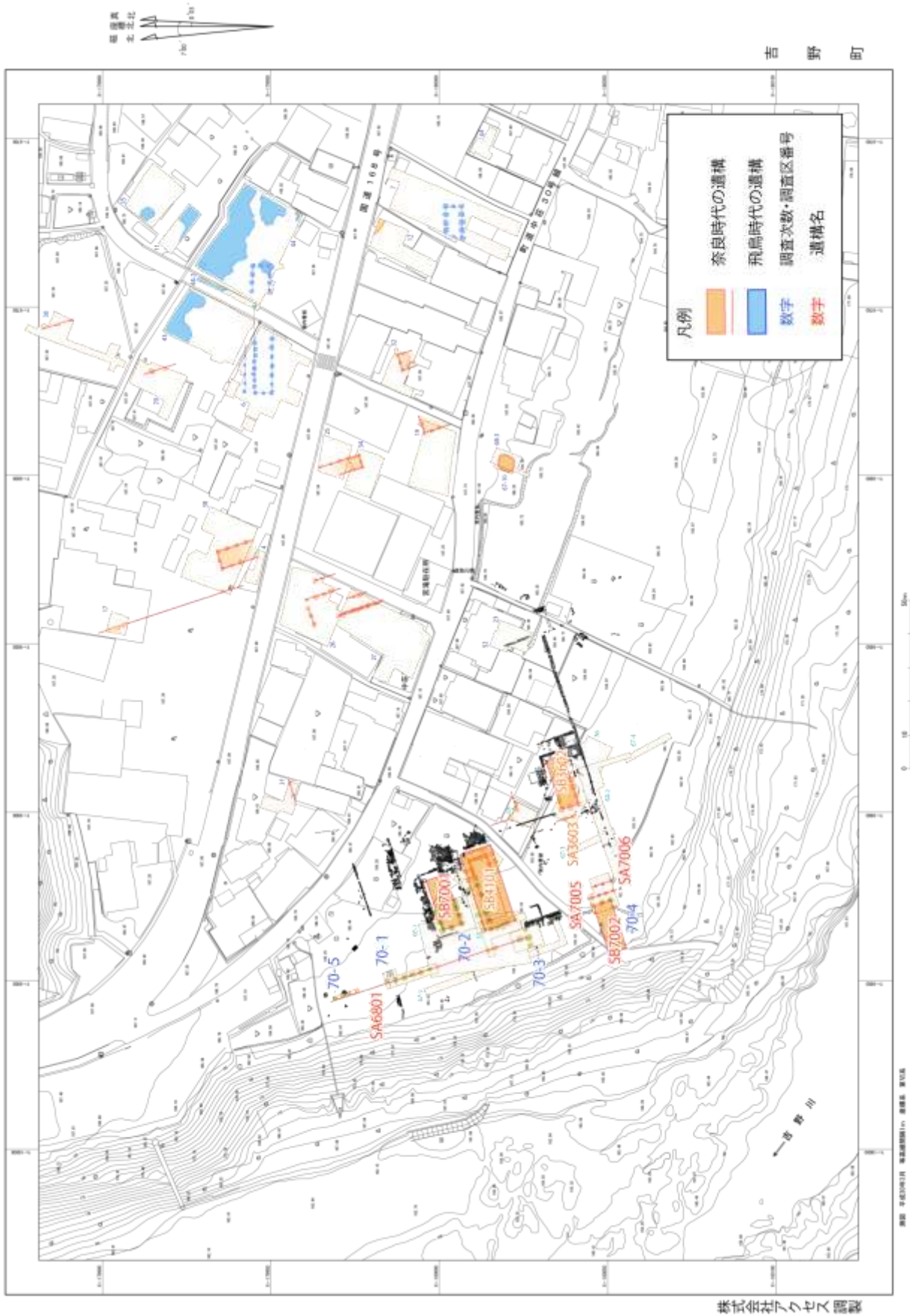


図1 宮滝遺跡の遺構配置図（広域）



図2 調査区の配置図と遺構の位置関係図

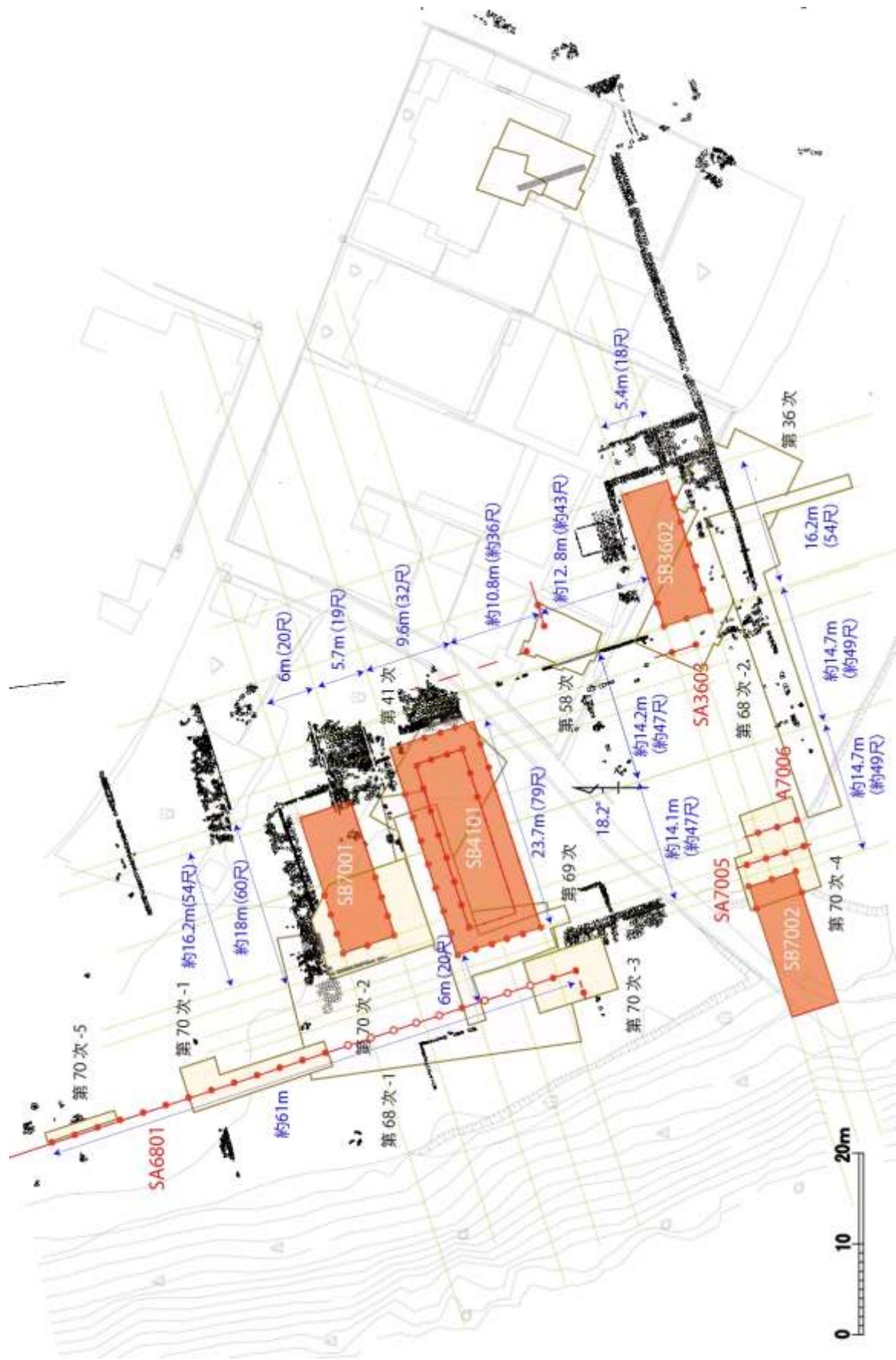


図3 建物の配置図と各距離

表1 宮滝遺跡の保存と整備に関する略年表

時期	内容
昭和5(1930)～13(1938)年	奈良県史蹟名勝天然記念物調査会 末永雅雄氏による第1次発掘調査が行われる。
昭和10(1935)年	中荘小学校内に郷土室を設置。
昭和19(1944)年	『宮滝の遺跡』刊行。(後、昭和61年に『増補宮滝の遺跡』刊行)
昭和32(1957)年7月	宮滝遺跡のうち22,625㎡が、国史跡(史跡宮滝遺跡)として指定を受ける。 指定の際、末永雅雄氏や郷土史家 橋本清左衛門氏らの尽力があった。
昭和41(1966)年5月	中荘小学校(現・吉野宮滝野外学校)校庭に宮滝出土品収蔵庫を設置。
昭和58(1983)年	史跡宮滝遺跡公有化事業を開始。
昭和63(1988)年	中荘小学校校庭拡張工事に伴う発掘調査で遺構保存が協議され、遺構保存施設が完成。
平成8(1996)年	吉野歴史資料館開館。『奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告書第71冊 宮滝遺跡(遺構編)』刊行。
平成24(2012)年	宮滝遺跡第1次調査出土縄文土器・石器が県指定文化財となる。
平成25(2013)年	『吉野万葉整備活用計画策定方針』策定。「吉野万葉整備活用計画基本構想策定委員会」設置。
平成26(2014)年	『吉野万葉整備活用計画基本構想』策定。委員会名を「吉野万葉整備活用検討委員会」と改称。
平成27(2015)年～	整備に向けた発掘調査を開始。(第67次～)
平成29年12月～平成30年3月	第69次調査の実施。SB4101の規模を確認し、東西9間(23.7m)南北5間(9.6m)であることを確認。
平成31年1～3月	第70次調査の実施。SB4101周辺の様相を確認(本発表)

表2 吉野宮・吉野離宮の出来事一覧

(※書紀…『日本書紀』、続紀…『続日本紀』)

時代	時期	内容	出典※
飛鳥	齊明天皇2(656)年	吉野宮をつくる	書紀
	齊明天皇5(659)年3月	齊明天皇、吉野宮行幸	書紀
	天智天皇10(671)年10月	大海人皇子、大津宮を発ち、吉野宮に入る	書紀
	天武天皇元(672)年6月	大海人皇子、吉野宮を発ち、壬申の乱を起こす	書紀
	天武天皇8(679)年5月	天武天皇、吉野宮行幸。鶉野皇女、草壁皇子、大津皇子、高市皇子、河嶋皇子、忍壁皇子、芝基皇子らとともに盟約を行う。	書紀
	持統天皇3(689)年～持統天皇11(697)年	この間、持統天皇が吉野宮行幸を31回行う	書紀
	文武天皇3(699)年8月	吉野宮付近などで木が枯れる	続紀
	大宝元(701)年2月	文武天皇、吉野離宮行幸	続紀
	大宝元(701)年6月	持統太上天皇、吉野離宮行幸	続紀
	大宝2(702)年7月	文武天皇、吉野離宮行幸	続紀
奈良	養老7(723)年5月	元正天皇、芳野宮行幸	続紀
	神龜元(724)年3月	聖武天皇、芳野宮行幸	続紀
	天平8(736)年6～7月	聖武天皇、芳野離宮行幸	続紀

表3 吉野宮にまつわる主な万葉歌

※…大伴旅人のこと

天皇（天武天皇）、吉野の宮に幸しし時の御製歌 よき人の よしとよく見て よしと言ひし 吉野よく見よ よき人よく見	巻 1-27
師大伴卿*の、遥かに吉野の離宮を思ひて作る歌一首 隼人の 湍門の磐も 年魚走る 吉野の瀧に なほしかずかり	巻 6-960
吉野宮に幸しし時、柿本朝臣人麻呂の作る歌 やすみしし わご大君の 聞き食す 天の下に 国はしも 多にあれども 山川の 清き河内と 御心を 吉野の国の 花散らふ 秋津の野辺に 宮柱 太敷きませば 百磯城の 大宮人は 船並めて 朝川渡り 船競ひ 夕川渡る この川の 絶ゆることなく この山の いや高知らず 水激つ 瀧の都は 見れど飽かぬかも	巻 1-36
やすみしし わご大君 神ながら 神さびせすと 吉野川 激つ河内に 高殿を 高知りまして 登り立ち 国見をせせば 畳づく 青垣山 山神の 奉る御調と 春べは 花かざし持ち 秋立てば 黄葉かざせり 逝き副ふ 川の神も 大御食に 仕へ奉ると 上つ瀬に 鶺鴒を立ち 下つ瀬に 小網さし渡す 山川も 依りて仕ふる 神の御代かも	巻 1-38
暮春の月、吉野の離宮に幸しし時、中納言大伴卿*、勅を奉りて作る歌一首、并に短歌、未だ奏上を経ざる歌 み吉野の 芳野の宮は 山柄し 貴かるらし 川柄し 清けかるらし 天地と 長く久しく 万代に 変らずあらむ 行幸の宮	巻 3-315
養老七年癸亥夏五月、芳野の離宮に幸しし時に、笠朝臣金村の作る歌一首 瀧の上の 御舟の山に 瑞枝さし 繁に生ひたる 梅の木 の いやつぎつぎに 万代に かくし知らさむ <u>み芳野の 蜻蛉の宮</u> は 神柄か 貴くあるらむ 国柄か 見が欲しからむ 山川を 清み清け みうべし神代ゆ 定めけらしも	巻 6-907
万代に 見とも飽かめや <u>み芳野の 激つ河内の 大宮所</u>	巻 6-921
山部宿禰赤人の作る歌二首 短歌を併せたり やすみしし わご大君の 高知らず <u>吉野の宮</u> は 畳づく 青垣隠り 川波の 清き河内そ 春べは 花咲きををり秋されば 霧立ち渡る その山の いやますますに この川の 絶ゆることなく ももしきの 大宮人は 常に通はむ	巻 6-923
八年、丙子夏六月 芳野の離宮に幸しし時に、山部宿禰赤人の詔に応へて作る歌一首短歌を併せたり やすみしし わご大君の 見し給ふ <u>芳野の宮</u> は 山高み 雲そ棚引く 川速み 瀬の音そ清き 神さびて見れば貴く 宜しなべ 見れば清けし この山の 尽きばのみこそ この川の 絶えばのみこそ ももしきの 大宮所 止む時もあらめ	巻 6-1005
神代より <u>芳野の宮</u> に あり通ひ 高知らせるは 山川をよみ	巻 6-1006
芳野の離宮に幸行さむ時のために、 儲けて作る歌一首 高御座 天の日嗣と 天の下 知らしめしける 皇祖の 神の命の 畏くも 始め給ひて 貴くも 定め給へる <u>み与之努</u> の <u>この大宮</u> に あり通ひ 見し給ふらし 物部の 八十伴の男も 己が負へる 己が負へる 己が名負ひて 大君の 任のまにまに この川の 絶ゆることなく この山の 彌つぎつぎに かくしこそ 仕へ奉らめ いや遠永に	巻 18-4098
古を 思ほすらしも わご大君 <u>余思努の宮</u> を あり通ひめす	巻 18-4099



写真1 調査区全景



写真2 調査区の配置図（全景・南東から）



写真3 第1調査区 全景（写真上が東）



写真4 第2調査区 全景 (写真上が東)



写真5 第3調査区 全景 (写真上が東)



写真6 第4調査区 全景 (写真上が東)



写真7 第5調査区 (全景・写真上が東)